

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971300353	
法人名	医療法人社団 富士厚生会	
事業所名	グループホームあんず	
所在地	山梨県南都留郡山中湖村山中1069-3	
自己評価作成日	平成28年8月20日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	平成28年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事や食事などのイベントは、毎月あり利用者様に参加して頂いており、充実していると思われま。近くに商業施設も出来、買い物も行きやすくなりました。老健の通所の方との行き来もあり、とても喜ばれています。職員研修は、毎月あり個々の能力の向上にも役立ち全職員参加しています。また外部の研修会にも参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山中湖西側に位置し、散歩や買い物に程良い距離に位置する森の中にある。事業所敷地内には、医療法人が母体の介護老人保健施設と通所リハビリテーション施設があり、防災訓練や緊急時の対応等の連携が図れる環境となっている。特に研修制度(認知症や身体拘束をしないケア、QOL向上や接遇等)が確立されている。全職員が受講出来る様に同じ研修を繰り返し実施している。外部から講師依頼を受けている職員もいる。また、施設内託児所が整備されていることもあり、結婚、出産後の再就職率が90%と高く、働きやすい環境から利用者一人ひとりに寄り添った温かみのあるケアが提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果		事業所名(グループホームあんず)	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(明るく、楽しく、その人らしい生活が送れる)の理念に基づき、地域の力を少しずつ取り入れながら、その人らしい生活が出来る様に支援し、日々笑顔にて生活して頂けるよう取り組んでいます。事業者理念は、1日3回の申し送り等にて共有しています。	利用者個々の今迄の生活歴や趣味、要望、併せて家族の意向等を日常ケアの中で情報として取り入れ、月1回のペースで行われるケア会議に於いて、理念でもある「その人らしさを」見出している。また、職員の共有理解を図る為、事務所内の目に付きやすい場所に理念を掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	山中湖村主催の運動会は、毎年参加しています。地域のボランティアの方が定期的に訪問してくださり、歌や物作りを皆さんと行っています。	村や地域、ボランティアとの関わりが深い。村主催の祭りへの参加、ボランティアの来訪や災害時の水場確保の為に水源をもつ事業所との協定等々、地域との関わりは良好な状態となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内・外部での認知症の研修を毎年定期的に学んでいます。内部の研修会では、地域の方の参加も呼びかけ、参加して頂ける。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1度(奇数月)開催しています。会議議事録を作成し、面会時等にて報告しています。また欠席者には、送付しております。	2か月に1回のペースで行われる運営会議の議題としては、行事の企画、外部意見の取り入れ、行政での行事予定情報等、円滑な事業所運営が行われるように家族を含めた会議となっている。参加できない家族や行政職員及び民生委員等に対しては、面会時及び書面、電話等にて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	訪問や連絡にて実情などを報告しながら取り組んでいます。またボランティアの紹介をして頂いたりしています。	介護保険更新手続きや実績配布、利用者の暮らしぶりやボランティアを含む市主催行事情報等のやり取り、また、当事業所職員が、市で行われる研修の講師依頼を受けている等行政との関わりは密となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理事長・施設長より身体拘束をしないと取り決めております。また内部研修での勉強会に職員全員参加しています。	研修制度の活用もあり、身体拘束をしないケアに対しては、職員全員の意識が高く、新人職員に対しても徹底した教育がなされている。スピーチブロックについては、話し方、声掛け、促し方法に利用者を気遣う拘束回避の工夫がみられ、尊厳や自尊心を失わせるような言葉使いには特に注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケア・業務にて職員全員にて注意を払い努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会が有り、必要に応じ都度対応出来る様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、事前に説明を行い、分からない事は、都度面接し、不安などを取り除くように努めています。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果		事業所名(グループホームあんず)	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価(実践状況)	実践状況
			ユニット名()	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する事などは、都度傾聴しております。家族面会時には、必ず近況の報告をしています。状況に応じ、適時連絡を取り意見や要望を聴き対応しています。	面会時等、機会があるごとに、利用者や家族の要望を聞き、定例のケア会議に於いて、議題として協議し可能な限り反映するように努めている。要望の強かった災害対策対応として、市と協定が結ばれ利用者及び家族の不安の解消が図られた。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別にて傾聴する機会を設けています。職員の体調や不安などを傾聴し対応しています。	月1回のカンファレンスでは、個別目標の達成度、事業所に対しての要望等の意見が出る。また、年2回の上司による個別の面談があり、プライベートな相談もできメンタル的なフォローとなっている。催事企画の提案や、職場への意見要望の場となっている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、個別面談を行い、職員の意欲向上に努めています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修には、全職員が参加し、個々のスキルアップに繋がっています。外部主催の研修にも適時参加しております。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会の研修会に参加し、他施設の方との交流をしています。そこでの内容も皆で共有できる様にしています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様より現況などの情報や要望を得るように努め、安心・納得をして頂き、サービスを開始出来る様になっています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通じて、ご家族様の実情や要望を傾聴し、より良い関係が築けるようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、併設される老健施設の専門職に相談・助言をしていながら対応に努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に物事をする様にし、寄り添っていけるような関係性が出来る様に支援しています。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名(グループホームあんず)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告は随時行い、必要な場合には、面談をしながら今後の支援を検討したりしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の老健の通所の方との交流できる様に支援しています。電話をされたい方の対応もしています。また、面会時には、ゆったり出来るように支援しています。	馴染みの生活が提供出来る様に、自宅ですべての物を使用し生活感を保つ工夫や、今迄趣味としていた事を取り入れて在宅生活との差をなくす工夫をしている。また、墓参りや正月行事等取り入れて、利用者がこれまで大切にしてきた事が継続できる支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、皆さんと一緒に活動出来る時間を作り孤立しない様に支援しています。また、皆さんの所在確認も職員が連携しながら行っています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時は、終了後も支援に応じています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な方には、日々での係わり合いのなかで汲み取って行ける様に全職員にて対応しています。また新たにご家族からの情報や利用者様の表情にて取り入れた事を提供しています。	全職員が、本人の思いや意向を日常的なケアの中から見出し出せる様に心がけて支援している。特に新しく入居する利用者には、細かい心配りをしている。利用者の中には、家族の声を聞きたいと、毎日施設内電話を使って話し、安心して過ごしている方もいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後にも、自宅で使用された家具などを持ち込んで頂くようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、カンファレンス等にて入居者様の現状を報告し、職員が共有する様に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が個々に入居者様のモニタリングし、ご本人や、ご家族様の意見や要望をカンファで話し合い取り入れるようにしています。	暫定プランから1~3か月後に見直しプランを作成し、その後は毎月担当職員がモニタリングしている。日々の申し送りやカンファレンス時に意見集約し見直しチェック、利用者本人、家族の意向や要望も取り入れ、状態変化や緊急対応時は、随時計画を変更して、状態にあったプランとなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報などを担当職員が提供しながら見直しをしています。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果		事業所名(グループホームあんず)	〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	
			ユニット名()	実践状況
			外部評価	
			次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望があれば医療機関の受診の支援を行っています。また併設施設の専門職に訪問して頂き、出来る範囲内にて支援しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用・協力しながら支援しています。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が内科専門で有る為、定期的に受診しています。専門外医院の受診も状況に応じ職員が付き添い支援しています。	入居者全員が同じ主治医でなく希望により決めている。歯科、整形外科、眼科等の受診も含めて付き添いの基本は家族であるが、都合が悪い場合には、施設で対応している。いずれの場合も随時電話等にて情報を共有している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々での状態の気づきや情報等を併設の老健看護師に随時伝え、相談し日常での健康管理の支援をしています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院先の病院と連携し、今後について安心出来るようにご本人、家族と話しをし支援しています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居前に、ご家族様(キーパーソン)と想定した話を行っています。当施設では、看取りはしない方針としています。*継続入居については、日頃より説明しております。	入居前カンファレンスに於いて、看取り対応は行わない方針説明を行っている。緊急時は、併設、老人保健施設の医師によるファストコール、看護師による状態観察等の様子から、家族とともに今後の対応の方向性の検討をしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急マニュアルを元に行動するように努めています。併設老健での急変時・事故発生時の対応の研修を受講して対応出来るように学んでいます。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体の防災業者主催の訓練及び勉強会をしています。避難訓練は、単独にて実際に全入居様を交えた訓練を適時しています。	施設全体として避難訓練各年2回であるが、1回の訓練を5日間行い、停電 火災 地震等また、夜勤や遅番等全職に周知徹底している。特に夜間は職員数も限られることから、併設老人保健施設より応援体制が整備されると共に、防災マニュアル及び職員緊急網もあり、安全が確保されている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が対応しています。また、研修会などで再度確認し合いながら行っています。特にトイレや入浴介助時には、常に気を配る様になっています。	利用者の呼称は「～さん」と呼んでいる。入浴は、個別対応で希望があれば同性対応もしている。個人情報となる書類は、鍵のかかる棚に保管している。事業所内で接遇研修も実施しており、声掛けや促しには気を付けていて温かみを感じる対応となっている。

(様式1)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果		事業所名(グループホームあんず)		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	
			ユニット名()	実践状況
			外部評価	
			次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にあった言葉かけや接し方を全職員にて努め入居者様の素直な表現での要望や自己決定が出来るように支援しています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや主張を大切に、希望に沿った生活が出来るように支援しています。また余暇活動が継続できるように支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を尊重し楽しめるように努め、時には選択して頂きながらの支援を心がけています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー・食材は、老健施設より頂き、簡単な調理のお手伝いや食事準備・片付けなどを一緒に行っています。食事の企画として、好きな献立を調査し、食材を買いに行ったり、調理する行事をしています。	事業所内で食事作りをする企画が、月に1~2回あり、テーブル拭き、洗い物、野菜を切る等、利用者が分担して行っている。また、外食もあり自身の好みの注文ができ楽しみとなっている。行事や催し物では、アルコール類も適量の範囲で可能となり、それも楽しみの一つとなっている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別食や嗜好調査を元に提供しています。毎日、食事量・水分量を確認し、栄養状態等の支援を心がけています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを勧めています。時には、一連の動作の確認をし、指導する支援をしています。義歯は、洗浄・消毒を実施しています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、対応しています。時に声かけ・誘導にて気持ちよく排泄できるように支援しています。また、布パンツ使用の方には、さりげなく失禁の有無を確認し現状維持を保って頂ける様にしています。	布パンツを目標に24時間の排泄表から排泄パターンを予知し、声掛けや促しにより支援している。入所者8名の内、布パンツ3名、リハビリパンツ5名の実績となり、この状態の維持に努めると共に布パンツへの改善を図っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や量・性状等を記録し状態の把握に努めています。水分量の確認・毎日の身体を運動にも心がけて実施しています。排便難時は、老健ナースに相談し対応しています。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回の機会を作り、午前・午後と希望に応じ施行している。必ず1対1の対応と、湯の温度確認を2名にて行う。希望な方には、個人持ちのシャンプーを利用して頂いている。また入浴剤は、施設購入にて使用し、気分転換を図っています。	浴室は明るく清潔感がうかがえる。入浴を拒否する時には、無理強いせず声掛けや誘導の工夫をしたり、時間をおいて再度呼びかけるなどしている。併設の施設の展望風呂も利用できる。

(様式1)

自己評価および外部評価結果		事業所名(グループホームあんず)	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名()	実践状況
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居の際には、自身の使用された寝具を使用されますように勤めております。日中の活動を増やし、気持ちよく安眠できるように心がけています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握出来るように薬情を用意し、理解できるようにしています。内服介助のマニュアルを用いて、職員間にてチェックし、誤薬がないように支援しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活していく中での家事作業を積極的に出来る環境を支援し、もしくは、個々にて出来る活動の参加を促し、張り合いが持てるように支援しています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れて気温も高い日には、本人のご希望にて戸外に出かけられるようにしています。また、こちらからの要望にて、花壇・プランターの水やりを当番制にし、出られています。なるべく行事企画作成時には、外出物を企画する様に努めています。	事業所前庭には、花壇と野菜作りプランターがあり、利用者も水やり等の管理を行っている。外出希望者は、職員が同行しながらホーム周辺を散歩している。交通量も少なく木々が多く散歩に適した場所となっている。受診後に家族と外食したり、年末年始には、外泊する利用者もいる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルが生じる為、職員にて管理しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、支援しています。電話の取次ぎや、年賀状などの支援をしています。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・室温計を使用し、適温に保つように努めています。フロアの壁には、行事写真や季節の飾り付けをしたりしています。冬季には、コタツを出しつるげるように努めています。	夏でも涼しい環境下である。冬場は空調と併せて床暖房を使用している。今迄の生活歴から、希望者にはコタツの使用も可能となっている。また、施設全体が木のぬくもりで温かみを感じられる。壁には手摺が設置され転倒予防に役立っている。また、行事の写真や利用者の習字等が掲示されている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや居間の畳フロアに腰を掛けて頂いたり、冬季にはコタツを用意し、選択出来るように工夫しています。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具も有りますが、出来る限りご本人が使用された物を使用して頂くよう支援しています。自室には、作品や、お花を飾って頂くなどし、心地よく過ごせるように努めています。	居室入り口には洗面台が用意され、窓が大きく明るい印象である。タンスと机は備え付けてある。今迄の生活歴から持ち込みは自由、自分好みにレイアウトし花や写真、馴染みの物等を飾りつけ、在宅生活の時と同じような居室環境になっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには、なるべく物を置かず、動線を確保するように努めています。トイレも3か所あり状況に応じ対応出来るように支援しています。	